

第2回 半田市産業振興会議

| | |
|--------|--|
| 日 時 | 令和4年8月24日(水)14:00-16:20 |
| 場 所 | 半田市役所 1階 多目的ルーム1 |
| 委 員 | 別紙委員名簿 |
| 内 容 | 1. あいさつ 2. ふりかえり (1) 第1回産業振興会議及びその後の意見について (2) データ等の資料について (3) 今後のスケジュールについて 3. 議事「産業振興策について」 4. その他 |
| 議事録作成者 | 産業課 赤坂 |

1. あいさつ

(委員長)

- ・7月6日の第1回会議を終え、自由な意見や、質問シート回答をいただき、ご多用の中、新たな会議を積極的に受け止め、協力いただき、また第2回への出席いただき感謝申し上げます。
- ・引き続き、産業振興の方向性に沿うように議論をしていき、早い段階で目標達成の方針、方策を見出せるよう努めたい。
- ・第1回会議後、何人かの委員と意見交換してきた中で、根にあるのは、「こうありたい」というビジョンや方向性という基軸の存在、根幹を固めていくべきと考える。議論を通じ、道筋を立て臨みたい。遠慮なく意見をぶつけていただき、気づきやヒントを得てほしい。

2. ふりかえり

(1) 第1回産業振興会議及びその後の意見について

(事務局)

- ・第1回会議の議事録、その後メールでいただいたご意見から、キーワードをいくつか拾った資料を添付した。これらは、大きく2つに分け示しており、左側は課題解決的取組、右側は価値創造的取組として中長期的に取り組んでいった方がよいものとしている。

(2) データ等の資料について

(事務局)

- ・今後の産業振興策を議論するにあたり必要な要望があったデータを示している。

(委員)

- ・個人市民税の収入、固定資産税と法人固定資産税。法人固定資産税の割合が知りたいので、分けて提示してほしい。

(委員)

- ・産業連関表はぜひ見たい。

(委員)

- ・産業連関表は、例えば福祉系施策に1億使ったらどれくらい効果があるとか、飲食店に1億支援するとどれくらい経済効果があるかということ把握できる。ただ注意すべきは、産業連関表は過去のデータを参考に作られるものなので、未来に向けての施策を議論していくこの産業振興会議に有用かどうか分からない。ただ、その場合においても、現時点の半田市の産業構造を知ることは大切かと思うので、作りたいと思う。

(3) 今後のスケジュールについて

(事務局)

- ・3年の任期があるが、現時点ではまだ具体策が定まっていないため、今年度末までのスケジュールを示した。今後の会議予定と、予算化する際に関わってくる会議予定を掲載。

3. 議事「産業振興策について」

(委員長)

- ・第1回会議後、市長と意見交換する中で、市長は、この会議では、どちらかというと足元の経済対策を検討してもらいたいという意向だった。例えば人材不足への対策など。

・一方で、委員からは、半田の産業全体が盛り上がるような、未来に向けた中長期的な策について検討していくべきだという意見もあった。

・これらは、いずれも大切であり、両輪で検討していき、すぐできることはやっていきたい。

・例えば人材不足への対応は、人材バンクなどを設立するなど。事業者がほしい人材として、技術を持った人、定年後の経歴ある人の仲介もできれば、産業振興になるのではないかな。

・人への支援では、女性活躍のために、社内保育を作るなどは、既に会社で実施しているところもあるし、やれないところもあり、それは規模によって全然違うので、行政が補助するとか、新しくできる半田駅前に保育所を作るとか、アイデアを出してもらいたい。

・未来へ向けたビジョンを実現していくものでいうと、新しい半田病院が半田中央IC方面にできることに向けて、交通アクセスを作っていくことについては、話題性があるため、無人バスを試験運行するとか。やろうと思ってすぐはできないものではあるが、少しずつ動いて行ける部分もある。

・また、新病院の周りに、CCRC（Continuing Care Retirement Community：高齢者が健康なうちに入居し、終身で過ごすことが可能な生活共同体）を目指し、働きながら、生きがい求められるような、海外ではあるような環境づくりを日本へつくっていくこともしたい。例えば、認知症の方に好きなことをやらせれば、進行を遅らせることができるので、あのエリアに多い農業も踏まえ、コンパクトシティのテーマの中で環境を作り上げていくことも考えられる。

・いろんな意見があると思うが、短期課題と、中長期的なビジョン実現を分けて話をしながら、両輪を動かし、成果も上げていく必要もある。その中で補助金を使っていくなどの予算も加えていく。CCRCや自動運転は補助金を通していかないとなかなか進まない。地方創生をこの中にどう埋め込んでいくかで、半田の課題解決と、大きな価値創造が見えてくるのでは。

（市長）

・私は、企業は人材確保に苦労しているのではと思っていた中で、行政としての後押しを一緒にこの会議で考えていくことで、事業者の元気を作っていけると思い込んでいた部分もあったが、それよりも、未来の半田をどうするかの方が事業者の元気をつくれるという意見を聞いて、学ばせてもらった。元気につながるなら、近い将来、長い将来につながるころ議論してもらいたいし、身近なところでやれることがあるならどんどんやっていく覚悟。

・人材バンクは、半田市内に高校が5つある中で、半田の魅力や企業の魅力をPR、女性活躍、外国人活用、いろんな方向につなげられそう。

・8月臨時議会では、ネット販売に取り組む事業者を応援するという支援策を挙げた。こういった、事業者がやってみたいことを支援するようなことを、どんどん進めていくのもありかと思う。

(委員)

・弊社の従業委員構成は、正社員7：契約2：派遣1で、徐々に流動的人材確保が難しくなっている。この3年は契約社員の募集をしても、応募がほぼなく、派遣社員に関してもなかなか人材が難しい。人材レベルが下がっている。正社員で補う中で、今の所、大卒は厳しいが、高卒は毎年3人くらい確保できている。同業他社ではそれくらいでも羨ましいと言われるので、実際にはもっと深刻かもしれない。人材確保についての抜本的解決は難しいので、企業努力で、辞めない・入りたい企業になるしかないと思う。人材バンクを立ち上げて、ハローワークの棲み分けが分からない。

(委員長)

・ハローワークの中では、技能を持った人を受け入れできないので、能力ある人材を必要な企業へつなげていくような、ハローワークと比べて1段階高い部分へと棲み分けしていかないといけない。ハローワークすら集まらないところもあるので、行政が補助してくれたりが必要。

(市長)

・行政のお墨付きというか、目を向けさせることや、金銭的支援を、やれて効果があるなら、市もやっていきたい。
・企業の課題解決というのが、行政のルール変更や、何か行政から支援することで効果を上げたということがあれば、そのあたりは行政では気づけないので意見もらいたい。

(委員)

・人材バンクは面白い。スキルや能力で、選んでお手伝いもらえるという形になる。世の中の役に立ちたいが場が見つからないという人もいると思う。例えば、企業側からすると、「BCP(事業継続計画)を策定したいが、ノウハウも人もいない」というときに、適した人材を期間限定でもらえるメリットがある。

(市長)

・どんな人材かというところからの議論もいる

(委員)

・人材確保は企業力と思う。よい人材がいても、その人に見合った報酬の提供ができないとなると、絵に描いた餅に終わる。企業力をどう地元企業が持てるかが大事。これまでの企業は「競争社会で、他者を蹴落として儲けよう」という部分が多かったが、これからは「協働社会で、消費換気はみんな呼び込もう」という発想や、製造業でも「みんなで環境整えましょう」という方向に行くと思う。

(委員)

・入っても辞めていくと結局人材不足になるので、本当の人材不足解消を目指すとなると賃金負担してもらいたい、となるが、そこは本来企業努力の部分なので、そこまでできない。もっと入口での支援となると、出会えてないところを出会わせるところはある。

(委員長)

・他の企業と比べると全然違うと思うので、今の事例も参考にならないんじゃないですか。やはり、就職しても辞めてしまうとなると、どうしても人を合わせるが対象というところでいいと思う。賃金を市に少し負担してもらおうところまでは、本来企業努力なので、やれない。

・ただ、魅力がない企業に対して、引く手数多の人材を無理やりくっつけることを支援しても、何か解決には出来ないの、割り切って、人材マッチング出来てない部分を、どう良くできるようにするかを目指すといいと思う。

・半田市の工科高校から入社しているか？

(委員)

・正直にいうと、来年と今年、2年連続紹介もらえてない。大企業のシェアが広がっている。

(委員長)

・やはり。そういう中で、行政含めて宣伝をしてもらい、企業の中を見せることも必要。人材バンクというのは1つの例であって、そういうものを作って地元企業へ勤めてもらえるようにしたいということが目的。企業の1番の地域貢献は雇用だと思うので、地元の雇用をできるような体制をできるのが良い。その点、半田には高校が多いので、企業の宣伝を行政あげてやっていくことが大事。「地元で働きたい住みたい、近いところで自分のやりたいことがやりたい」という人は多いと思う。各企業だ

けでやろうとしても難しいので、まだ知れ渡っていない企業の魅力を宣伝しながら、産業振興の一環として雇用を増やしていくことが、人口に留まることにもつながるので、一つの方向性として視野に入れたい。

(委員)

・毎年3人の就職がある企業さんは羨ましい。弊社は派遣が多く、正社員：派遣が7：3から6：4になりつつある。派遣でもコンプライアンスの限度内で長期の方がいるが、人によって左右される企業でも良くない。どんな人でも働ける企業を作らねばと思う。

・今日ちょうど、とある就労支援の事業所と打ち合わせをしたので紹介すると、弊社は人材確保として、程度にはよるが障がいのある人の仕組み化にトライを始めた。その際に、課題になったのが、賃金。就労支援の事業所を通した賃金は、一人あたり全国平均月1万5000円で、上り傾向とのこと。かたや障がい者を直雇用すると、業務的には一人前とはならないので、制度的に補助が足りず、就労支援事業所は国へ補助を働きかけているとのこと。例えば1人で1人前できるところを、障がい者だと4人かかるという場合、そこを行政が支援してくれると企業も助かる。

(委員)

・オープンファクトリーについて、個人的に興味があり、何年かけて各地を見てきた。その中で、半田市とは産業構造が違うが、新潟県の燕三条が「工場の祭典」というのをやっている。ヒアリングすると、今まで刃物を作っていた町工場が、デザイン的に素晴らしい刃物を作るようになり世界に売れるようになったとか、東京から大学を卒業して働かせてくれと就職に来たとか、ノミを作って量販店に格安販売や中国に販売していた会社が、ドイツの大工から注文が入るようになったとか。積み重ねがあって、そういうふうになってきている。工場の仕事を、地域の子供たちや、外から来た人たちに自由に見てもらうのは、働いている側からすると刺激になるし、工場もキレイになるし、いいものになる効果があると聞いた。燕三条だとこのような事例だが、半田の場合はもっと多様化した産業構造を見せることができる。子供たちに地元企業を見てもらうと、企業が変わっていき、人手の問題もまとめて改善できると思う。

(委員長)

・私も三条市に行ったが、一つの工程を見せることで、技術も上がる。その分価格は高いが、文化を作っている。最終的には人が見て、集まってくるので、それに行政と企業がコンビを組んで行かね

ばならない。「なぜここにこんなに人が」となれば、人々の価値観が変わってくる。半田市にはミツカンなどもあるし、多くの人に見せていくのは大変な部分。

- ・商売を継ぐのは苦しいことが多い中、認めてもらい、いい企業にして、夢がないと、子どもたちにも継いでもらえない。

- ・価値を上げていくというのは、いろんなことで行政が動いてるが、先日三重県多気町の「VISION」(日本最大級の商業リゾート施設)に行き、こんなに山奥に人が集まるのかと驚いたが、価値観の創造の発想も一つ大事だと思う。「人手が足らん」というのではなく、半田は文化と芸術の街というが目の前に見えるものがないので、最終的には経済効果を産まなければ、いくらやってもつながらないと思う。

(委員)

- ・私は長期的な課題をどうするかに関心がある。産業振興の1つの指標がGDPで、最後のアウトプットだと思う。産業資本がなければ産業振興成り立たない。基礎である土木的インフラ整備は行政が得意とするところ。いろんなものの循環をするにあたり、障害をなくし優位な基盤を作ること、上流工程の産業振興に影響する。ミドルは社会資本、行政、産業、教育、人が働く上で起業家が発揮できる社会機能。この社会資本がきちんと整っていると、都市として産業振興において優位になる。

- ・農業で言うと、農作物はただできるのではなく、まず土地という物理基礎が必要。次にミドル基礎としての土作りが大切で、肥料、種子があって初めてトマトやなすができる。

- ・産業振興も同じことと思う。その上で、半田市のミドル基礎はどうなのかというのが点検されているのかと思ったので、いくつかデータがあるかを聞いた。周辺市町を見ても、道路は半田市の方が充実しているし、医療教育は優れている。ただし、まだまだ充足していない部分があるのかという点検はした方が良くと思う。弱いところ、伸ばしたいところがあれば、その上で、いちごや、醸造など、観光の強み分野に係る基礎を整えることが産業分野を将来的に強くすることにつながる。入口のアプローチとして、俯瞰的な構造的観点を踏まえて、中長期的な展望を持ちたい。

(委員長)

- ・いろんな意見があると思うが、できること、足元の部分と将来展望、どういうことをやって行ったらいいのか、何をしたら効果が出るのか、予算確保しながら手を打たないと、議論だけではなかなか終

わらないので、いい意見がないか？ 全ての人が満足できる部分はないと思うが、1つでも2つでも半田が動いたというのを示したい。

(委員)

・短期と中長期の分け方もあるが、よく考えてみると、基盤的なもので、すぐに必要だし将来的にも必要なものもあるので、そこをきっちりさせていくことと、長期的なチャレンジしていく部分も合わせた方が良い。

・人材については、基本的には地域経済を膨らます根本は定住人口の増加。内から増やす方法として子供を産む、流出させないことがある。そして、外から呼ぶ、この3つが必要。

・明石市で散々メディアに出ている「人口増えた」というのは、明石市は人口約30万人いて、財政規模も3倍くらいで、半田市の人口規模とは状況が違うので一概にいえませんが、子供に手当を厚くすると、若いファミリー層が定着し、金を使うということに繋がっている。

・人材バンクの話は興味深かった。自分の子供の幼稚園の送り迎えをしていた時に、ママたちと話す、子供がいない間だけ働けるところ、例えば給食センターで働きたいと聞いたことがある。そのような雇用を企業が求めているかわからないが、こうした働き方がしやすいことも検討してはどうか。

・シルバーは、年金をもらい出すと、「責任持つのは嫌、小遣いは欲しい」「週に2回でいい、無理せず、そういう仕事があればなあ」という人がいる。ただ、シルバー人材派遣センターはボランティアにちかい仕事が多い。もっと、現役時代に近い、例えば営業のような仕事があれば面白い。

・あとは、CCRCにも絡むと思うが、ジブリの宮崎駿監督がイメージボードでポニョを書いたとき、保育所の横に老人ホームを描いているように、人に役割を持たせる地域も大事。半田独自のものを設け、子育てできる人は子育てできる人なりに、年いった人は年いった人なりの働きができるような環境があればと思う。フルタイムの総額の賃金が必要ない人は、企業にとってプラスアルファで欲しい人材となりうるのではないか。

・今後半田市の産業振興としてチャレンジすることは、例えば、自動運転の社会実験のように、「半田なら社会実験できやすい」というのを、市や県や国のフォローアップや、特区を使って、みてはどうか。うまくいなくてもいいと思うので、突拍子のないものを1つ2つ入れてやってみて、まずは広げていくのはどうか。

(委員長)

・チャレンジという方向は重要。

・CCRCは、年寄り、商売など、いろんな部分での活用ができる。ただ、なかなか内容を知らないの
で、勉強のために詳しい方を呼んで、話を聞いてみましょう。

・CCRCは地方創生の中で動くと思うし、初めてのことで補助金も取りやすい。日本版CCRCが
一つできると大きく広がっていくと思うので、半田で試してみるのがいい。これから新病院ができて、
既存のイチゴ農場もある近くでは企業がバイオマスの熱を使ってトマト作って、大きな様変わりをする。
最近、食や健康に関心が高いし、全国からそこへ来たい人が来る。そういう人たちが働くところ
で、税収が増えていく、商売の可能性もある。これを県と国会議員を通してやるべき。国も興味
持っている。成功するとは限らないが、チャレンジの方向にある。

・そういうことを企業が目指すと、地域の金融機関をしっかりする必要があり、合併の方向もある。
チャレンジの一環として、そういうことも視野に入れる

(委員)

・弊社はママさんや高齢者の短時間労働に取り組んで、とても多い。週3日4時間勤務などの
頭数は増えている。

・これがあるといいなと思ったのは、例えば、働きたくても働く場所も見つけれない事への対応。
昔、自分が幼児保育課に保育園の入園申込をしたとき、「働く場所が決まってないのに出さない
で」と当時は言われた。子どもを預けてから、仕事を探したくても、ハローワークに行かないと職を
知らない。短期的にできるものとして、人材バンク、企業バンクでの紹介は、事業所としては嬉しい。

(委員)

・現在、半田市の人材バンクの制度そのものではなく、ハローワークの紹介がそれになっているが、行
政が人材紹介に介入することは難しいことではないような気がする。

(委員)

・ハローワークと連携している県の事業シングルバンクは、よく求人情報がくる。市内で2-3時間だ
け勤務したい人は多いし、採用したい企業も多くなっているので連携してほしい。企業としては広
告出しながら、人集めだけではなく、行政と連携できるといい。

(委員長)

・企業独自で探すのではなく、行政や商工会議所との連携の中で、違った人材が獲得できる。

(委員)

・無料の職業紹介事業は、許可が必要かどうか。有料の職業紹介事業は、厚労省の許可があって事業が始められるが、これが自治体にも当てはまるのか。

(委員)

・一度検討する。

(委員)

・子どもの保育園の役員をやっていた時に、1-2hのパートが欲しいとっていて、保育園での知り合いに「近いから行ける」という人がいた。午前2h、週2で十分だったので、そういうことをお願いした。ただ、2年経って、その方が懐妊して、保育園を退園されたので、つながりがなく、自身も保育園と関わりがなくなったので、新たに募集するわけにいかなくなった。

・そういう短時間労働ができる人材を仲介してくれて、近所の人に来てくれたら、交通費なり考えなくてもお互い様で、子供が急に熱を出していけなくなっても、折り合える。そういう仕事は農業に溢れている。高齢者でも、シルバー人材派遣センターだと、先まで予定が埋まったりする。アプリ的なもので登録してもらって、「誰かいませんか」とマッチングできれば、定期的に同じ人がきてもらえて、この人なら大丈夫そうという人を、雇用につなげていけるのではと思う。農業は、シルバーや短期の人が本当に欲しい。暑い時期は早朝しかいない。高齢者は、朝に働く。朝だと働くお母さんは難しいが、高齢者で小遣い稼ぎができる人なら欲しい。例えば、市主導でマッチングアプリがあり、ポイントがもらえて小遣いとして商店で使えるとか、経済に繋げていけるのでは。他市町の例を見たことがある。漁業で、高齢者が漁に行けず、観光客が魚を釣って楽しんだ分を、買い上げる。その分、ポイントがもらえて産直センターで使えるという仕組みで、そうすると観光客はポイント以上の買い物をしていく。それがあるから来る。働いてもらう部分を楽しんでもらう。事業者も助かる。そういうシステムがあると助かる。

・また、常滑市のりんくうビーチの近くの橋梁、「瀧上工業がこの橋を作りました」と書いてあって、「半田の企業が？」と嬉しくなった。工業だと、会社名だけでは何を作っているか具体的なものがわからないが、PRが分かりやすくあると、愛着がわく。代表的な商品、製品があると、子供は「すごいもの作ってる」と、身近になり、地元企業に興味持つのではないかと思う。

(委員)

・半田市の国県の補助金へのキャッチアップについてどうなっているか知りたかったが、資料(決算書)だけ見ても、どんな戦略性を持っているか読み取れなかった。例えば、金額が大きいもので、地方創生交付金などは、中長期的にこの補助金をもらってどんなことやっていこうとしているのか知りたかった。補助金は、優秀な若手職員が「この補助金取れる！」と書類書いて応募して獲得できても、単発で終わってしまうことが多く、市として戦略的に対応できていないのではないかと。

・例えば無電柱化は、すごくいいことだが、観光戦略などとも連携して市として戦略的で行うべき。AIの発展により、さまざまな数値データから、その中の意味のある内容を抽出することができるようになってきている。いわゆるデータの見える化、こうしたデータサイエンスの発展に対応できるような体制を半田市に作ってもらいたい。その上で、今後は、戦略的に補助金申請をしてほしい。

国もDXやGX関連など、戦略的に補助金をつけている。国や県の風が吹いているところに、帆を立てた方がよい。半田は歴史的景観など潜在的に持っているものも少なくないので、強みとしてやって、磨くと、戦略性を持っていくと、短期も長期もより強いまちづくりができると思う。

・半田市は、これまで、山車・蔵・南吉・赤レンガとPRしてきたが、南吉記念館を作って30年くらい経っている今、時代の変化の中で、こうした象徴的な情報をどうやって発信したら効果的なのか考え直す時期にきている。1つ1つ、「令和の半田」の強みを考えて戦略性を持っていくべき。

・人材バンクについてはよくわからなかった。既存のバイトアプリに、指摘のあった機能はほぼ全部あり、ローカルではなく、人が集まっていて、便利な会社で、というアプリはある。大学生の多くはアプリを使いこなしている。今の人材バンク、空き人材の有効利用の話題は、「アプリを使いこなさせるデジタルデバイドの問題、使いこなせない人にどうするのか」・・・という話なのか、「企業と人のための仕組みを作れ」ということなのか、どこがポイントになるのか。また、それを考えることで、産業振興になるのか。最近では、情報発信の世界にもAIが広く導入されているので、工業系なら、どの会社がどんなに楽しい作業で、どんなに技術がすごいのか、農業もどんな魅力的な作物を作っているのかなどを、上手に情報発信することが大切だと思う。こうした情報検索の中で、半田の事業者がヒットするようにする事が大切だと考えるが、どこが論点がよくわからなかった。

・情報通信技術の発展は、今後さらに20-30年間は、デジタル技術による社会構造改革が進行すると考えられている。歴史的に見たら石油化学が地球環境を大きく変化させたように、DXが社会構造を変革していくのはもう止められない変化だ。情報技術を軸として社会が動いていく中で、半田がやるべきことは、データ社会に対応した環境を構築することだろう。

・例えば、半田の、「歴史的景観」、「醸造文化」、「美味しいもの」などの情報を積極的に世界に発信し、世界のシェフたちがここで料理を作りたいと思ってもらえるような環境づくりはできないだろうか。

・愛知県では、リニア、セントレア（第二滑走路）など、近未来のプロジェクトが進行中である。こうした未来の人の動きを先取りして、半田として対応すべき。

（委員長）

・コロナワクチン接種の申し込みすらできない世代と、得意な世代では格差がある。全てができる人ばかりではないから、年がいった人にも機会を与えるのか、両立しないと今すぐは難しい。

（委員）

・行政は民間に比べてデジタル化が遅れている。確かにデジタルデバインド対応は必要だが、昨今のスマホの普及状況を見ると、意外と近い将来、デジタル技術の普及は進むのではないだろうか。

（委員）

・補足。半田市役所では、4月からデジタル課を創設した。一番の推進業務は電子申請で、市役所への申請を電子化して、来庁しなくても、マイナンバーを利用して申請ができるようにしていく。

・デジタル化が加速しているのも、半田市役所にプロがないのも事実。ただ、市民もデジタル化についてきていないのも事実で、上手に進んでいないのが現実。デジタル化が加速すれば、すべてのことが楽になるのはわかっているが、行政が一体となって進まない現実がある。

・人材確保については、半田市役所も1事業所であって、職員採用試験があり、ありがたいことに毎年一定数の志望者はいるが、年々応募者数が減っていて、いい人材がいなくなっているのが事実。民間のいいところに持ってかれていたので、良さをPRしたいと思う。「オール半田」で企業と行政がPRするのがいいかと思う。どこかで情報を集約して発信するような形で、短時間労働などの、切り口を持つのはいい。情報がまとめられると、行政としての役割を明確化できる。ここを起点にして進められるといい。

（委員長）

・人材バンクをどういう方向性で進めるのか。働き改革を入れていくのか。時間的なこと、保育の部分で声が出ている中、行政ができるのかは難しい部分があるので、今ある部分をどう活かすか。企

業はできているところを利用する。保育所が散らばってるので、5つくらいの地域に、建てる場所を支援して企業枠を作るとか。行政が作ると一律の施設しかできないので、民間設立で支援していくことで、英語を教える保育園などの選択肢もでき、親が取捨選択していいといい。全て見ていくと大変なのでやれることを現実の部分で、チャレンジ項目に入れて、動いていけばやれないことはない。

(委員)

・やるべき。

(委員長)

・ここにいるメンバーが理解しないと、同じ方向づけを理解しないと、知識が少ない部分は学ぶ機会を設けてもらうなどもあり。最近、LINEのボイスメッセージでも感動したが、そういうことすらわからない部分もあるので、こういうこと知ったほうがいいよとか、ご指導いただけるとありがたい。産業振興会議を市長の肝煎りで始めたので、現実にはできるもの、将来に向けてのものも簡単にいくかもしれない。1年単位で社会は変わっているから、やれることに手を入れたい。

(事務局)

・貴重な意見として受けたい。短期的、長期的な話の中で、来年度予算が関係してくる。議論の中で、語り尽くせなかった部分もあると思うので、事務局から、来年度予算に向けてのアイデアをお聞きし、選択できたらと思う。何がなんでもとはいかないが、目処は一応あるので意見が欲しい。

(市長)

・せっかく立ち上げたので、成果を意識してくれている。

(委員)

・長期的な観点でいえば、調査研究レベルで予算執行する提案もありか。

(事務局)

・長期的な観点での対応で、来年度予算なりにいきなり実装は難しいと思うので、いわゆる調査研究レベルの着手という意味合いで御提案いただいて結構だと思う。

(市長)

・人材に関しては、困っていて、マッチングが有用だという意見が出たので、バイトアプリも含めて調べを進めたい。その上で、実際に行政としてどうすべきか、バイトアプリに任せの方がよいという結論もあるかもしれない。

(委員)

・人材アプリなどは、企業の登録は有料になっており、中小企業で有料コンテンツに金をかけていくのが大変なので、例えばそこに登録する補助もあり。

(市長)

・登録の補助もありかどうか、検討する。自分でも、とあるアプリを使ってみたが、探しにくいと思った。定年退職した方を求めていくなら、アプリを使わない仕組みもありか。でも定年退職者の方が、スマホを使えない時代も、もうあと5年か10年ぐらいか。デジタル機器に慣れてない人たちもそうかもしれないが、ちょっとやってみる価値は、個人的にはあるのかなと思う。

(委員)

・これまで半田の現状データをみんなで共有してなかったという部分が、この会議で見えたので、せっかくデジタル課ができたなら、データを蓄積し、いつでも半田の状態が分かる体制づくりからまず入ってもらおうとよい。実態のデータを持ってなくて、共有できていなかった部分を、まず産業振興会議でやる。委員が調べてくれたように「発電量もすごい、半田はすごい、知らなかった」とか、共有できる。

・産業活性化しようとなると、「住みよくて、働きやすく、儲かる、稼ぎやすい街」を目指していくべきと思う。住み良い街とは、安全で、教育や環境がよく、文化度が高く、おしゃれな街。若い委員と話したのは、「子どもだけで公園に遊ばせにいくと親がいないと怖いので、高齢者に見ていてもらえるといい」とか、そこに予算つけましょうという話も出た。若いお母さんたちが安心して住めるとか、安心して仕事出来るのは大事なキーワード。来年度予算で何かつけることがあるなら、やれることから着手していけばいいかなと思う。

・企業が人材確保するために、その企業そのものの雇用条件や、魅力ある職場にしていくということが、人材を最終的に確保するのと同じように、市として定住人口を増やそうと思えば、市としての魅力をできるだけ高めて情報発信することが必要。戦略としては、市としての魅力として、まずコン

テンツを上げなければ、情報発信出来ないので、何が魅力なのかをきちんと、情報技術をうまく利用していくのがよい。

・「稼ぎやすい街」というのは、規制緩和、ルール変更の視点もある。お金を貸してくれるようなところがないと安心して仕事できないので、金融機関がしっかり力を持つよう強くなってもらう施策も考えてくのが必要。

(委員)

・定住人口戦略として、市としての魅力としてコンテンツを高める必要がある。

(委員)

・足元のことと言うと、JR半田駅前の建て替えがあり、駅前がどうなるのかはすごく重要。おしゃれカフェができて女性がたくさんきて、子育て支援施設もできるのか、気になる。

(委員)

・新病院建設に向け、無人バスを走らせるなど、市内の新しいイベントに対してどう魅力のある施策とリンクさせるかの議論をしたほうがいい。新病院と半田駅前の話は重要と思う。

3. その他

事務連絡

次回会議予定

第3回産業振興会議 10月25日(木) 14時～16時 市役所 1階多目的ルーム 1

第1回会議・その後のメール等意見において
委員のみなさんから出てきたキーワード

半田市の事業者を元気にする！

